



NEAR=北東アジア地方を表しています



韓国国際ウオーキング大会に参加したNPO法人未来のメンバーら=2009年10月、韓国原州市

貨客船利用し記念企画

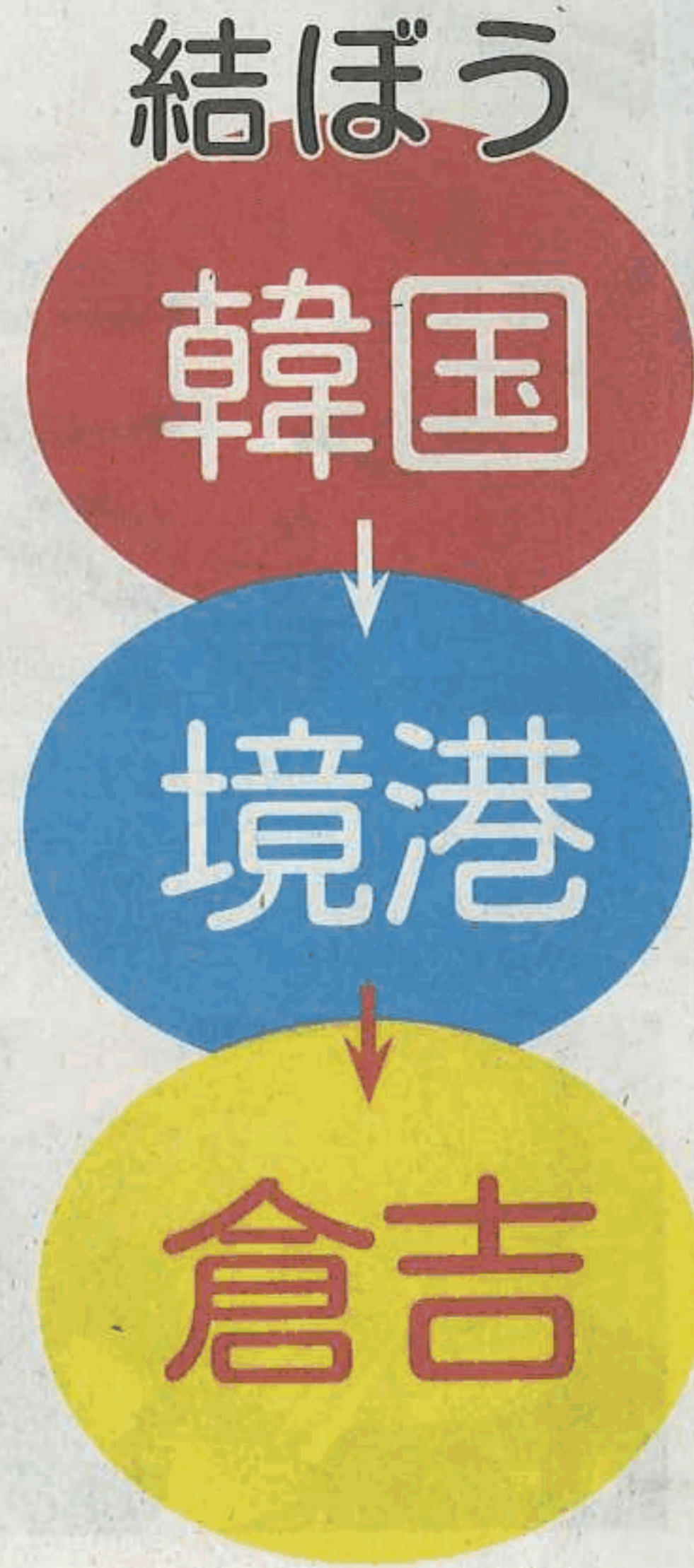
日本海未来ウオーク10周年

鳥取県中部で6月に行われる日本海未来ウオーク(NPO法人未来、新日本海新聞社など主催)に、今年は韓国の大韓ウオーキング連盟(李康玉理事長)のメンバーらが参加する。今年で10回目となる同大会の記念事業として企画。環日本海定期貨客船を利用して韓国から境港―倉吉をウオークで結び、大会を盛り上げる。

日韓グループが集合

大韓ウオーキング連盟 流会も開いている。李理事長は日本のウオーキングを取り入れ、ウオーキングを韓国で大きく発展させたという。同連盟は、韓国ウオーキングのメッカでWHO健康都市にもなっている江原道原州市で韓国国際ウオーキング大会を開催。2日間で参加者延べ3万5千人を集めているほか、大会前日には世界約20カ国から500人のウオーカーが出席する交

流会も開いている。同大会と未来ウオークの組織委員会は6年前から交流を続けており、昨年10月もNPO法人未来の関係者ら19人が同大会に参加、交流を深めた。その際、未来が開いている日本海未来ウオークの10周年記念事業として、韓国と境港を結ぶ定期貨客船を利用したウオーキングイベントの実施を大韓ウオーキング連盟に提案。李理事長は参加



韓国のウオーカーと交流するNPO法人未来の訪問団=2009年10月、韓国原州市

を快く承した。

計画では、今年の日本海未来ウオークは6月5、6日に開くが、その前に日本と韓国から15人ずつ合計30人が原州市に集合。東海市に移動して定期貨客船に乗船する。境港で下船した後は倉吉市まで79キロを、大山町や琴浦町で宿泊しながら3日間かけて歩き、未来ウオーク参加者と合流する。境港市―倉吉市間の沿線市町村の住民にも呼び掛け、一行と一緒にウオーキングする参加者も募る予定だ。

未来ウオーク実行委員長を務める遠藤公章さん(42)は「韓国では、地元の人々が気軽に声をかけてくれ、距離を近くに感じた。韓国と一緒に発展していきたい」と世界に広がるウオーキングの輪に期待。未来ウオークでは「地元の人には地域を再発見してもらい、訪れた人には鳥取県中部の良さを知ってもらいたい」と話している。

(中部本社・八幡祥代)